

言葉涼し

松岡隆子

一掬の泉水あをき立夏かな
師の句碑へ我らへ緑濃かりけり
舞の字の五月の風に翔つごとし
句碑の辺に語りて言葉涼しけれ
何か愉したわたわと青胡桃
考へてをり青蘆の風にをり
考ふる歩幅緑蔭抜けてなほ
梅雨の蝶谿の蒼さを逡巡す
これよりは道なき道や竹煮草
梅雨冷の白きを重ね皿小鉢
明易の机上きのふがそのままに
頬杖をする時いつも水中花